

杉本幸祐

松本大学人間健康学部スポーツ健康学科卒業
フリースタイルスキー・モーグル デイリーはやしや所属

遠征が多かった学生時代に 自己をプランニングする 力が付いた

取材・構成／和田悟志 協力／松本大学

今年2月、男子モーグルでワールドカップ4位と自己最高の成績を収めたのが松本大学OBの杉本幸祐だ。成績不振で日本代表を外れた時期もあったが、学生時代に身につけた自己プランニング能力が復活の鍵になった。

うまくできないから どんどんハマっていった



小学2年の時に初めてスキー板を履いたのですが、雪国で育ったわけではなく、静岡県西部の袋井市出身、雪に触れること自体とても新鮮でした。それまでは空手や野球、水泳などいろいろな習い事をしていましたが、スキーはうまくできないことがすごく多くて、でも、うまくできないからこそ、どんどんハマっていきました。また、ハの字で滑ることができるようになったばかりにもかかわらず、ボコボコの斜面を滑ってみたら楽しかったんです。それがモーグルとの出会いでした。とはいえ、当時の実力はというと、当然雪国出身の子に敵うわけがなく、小学4年生で初めて出場した草大会では、小2の女の子にも負けていました。

2006年にトリノ五輪がありました。モーグルの映像をスキー場の行き帰りの車の中で見て、どんどんモチベーションが上がっていきまして。それで「真剣にスキーをしたい」という思いを両親に伝え、中学からは長野の大町に移住しました。小学校の卒業文集にも「モーグルでオリンピックの金メダルを獲りたい」と書いています。

大学時代に身につけた プランニング術

合宿や遠征が多く、在学中は1ヵ月

の半分は遠征に行っていることもありました。授業に出られないことも多かったのですが、競技に対して理解のある大学なので、夜間に教授とコンタクトを取りながら論文を書き進めたこともありました。授業に出られない分は、周りの友達も助けてくれました。授業内容やテストのポイントを教えてください、なんとかテストに間に合わせることもできました。空港や飛行機の中でレポートを書くことも多く、学生時代に考えるようになりました。

高校卒業後の進路を決めるに当たっては、スキーをするために長野県に移住したので、活動拠点を移したくないという思いもあって、県内の大学を志望していました。それで、スポーツについて学べる松本大学を高校の担任の先生に教えてもらい、松本大学への進学を決めました。

現在は松本に本社があるデイリーはやしやに勤務し競技を続けていますが、スポンサーを集める際に、活動計画や目標を伝える時にも学生時代の経験が役立っています。

大学の授業ではスポーツマネジメントが面白かったです。スポーツの興行について無知だったので、アスリートとは違った視点から競技を見ることができました。それと、栄養学の授業はシンプルに競技にも役立っています。山で行うスポーツなので天候等の状況によってスケジュールが変わり、ご飯を食べる時間が不定期です。外は寒いので食べられないこともある。そんな時にどんなものを口にすればいいのか、考えるきっかけになりました。もう一度大学に通えるなら、栄養学をもっと深く学びたいと思うほどです。

2018年の平昌五輪を逃した後、2年間日本代表から落ち、自分が思い描いていた競技プランが大きく崩れました。ですが、22年の北京五輪まではしっかり頑張ると決めていたので、毎日毎日決めていた練習は続けていましたし、代表合宿がなくても、自分で計画して個人合宿を行っていました。気持ちは落ち込みましたが、チャンスがあればいつでも戻れるようにと体は仕上げていました。そのおかげもあって、ワールドカップでは2年連続で一桁順位を取ることができ、今年2月には自己最高の4位入賞もでき、自信になりました。いろんな経験を積んできて、今が一番、体の調子も技術的にも充実しています。北京五輪には自分のベストをぶつけたいと思っています。